

第4次長岡市環境基本計画 中間見直しの視点

1 脱炭素社会への移行

- (1) 世界：COP26(2021年10月～11月)におけるグラスゴー気候合意により、産業革命前と比較した気温上昇抑制をこれまでの2℃目標から1.5℃目標に引き上げた。
- (2) 国：2020年10月に2050年カーボンニュートラルを宣言。2021年4月に2030年度に温室効果ガス排出量を2013年度比46%削減する目標を表明。
- (3) 県も国と同じ目標とすることから、長岡市も2050年カーボンニュートラルを目指す旨記載することを検討。(P1：見直し項目 No. 11)

2 気候変動と生物多様性

気候変動による影響は、種の絶滅や生育域の減少などを引き起こし、生物多様性の損失につながる可能性がある。この変化は農林水産業や国民生活などの分野にも影響を与えることから、生物多様性が保全されることが重要。

3 ごみの減量と資源循環

国が「3R+Renewable（再生可能資源への代替）」(※)を基本原則としたプラスチック資源循環法を策定。

※これまでの3Rに加えて、環境に負担の大きい素材を植物由来などの再生可能な素材に替えていくこと。

4 長岡市特有の施策

- (1) エネルギービジョン：エネルギー施策の方針と重点プロジェクトの具体化にあたり、イノベーションを起こす視点で検討。
- (2) トキの野生復帰：長岡市内でトキの分散飼育を行っていることから、新潟県環境基本計画を参考に、トキの野生復帰に係る施策の追加を検討。(P25：見直し項目 No. 75)
- (3) ムクドリやカラスによる被害の防止：長岡駅大手口広場などでムクドリによる被害が発生していることから、「有害鳥獣の適切な管理」においてムクドリによる被害の防止に係る取組の追加を検討。(P30：見直し項目 No. 82)

5 市民、事業者、行政の総がかりで取組む体制づくりへ

環境基本計画の目標を達成するため、市民・事業者・行政が役割分担を明確に3者で行動変容に取り組む。

6 達成した目標値の見直し

達成された基本計画の目標値について、①さらに高い目標値を設定するもの、②達成した状況が維持できるかを確認するため目標値を変えないもの、③新たな目標値を追加設定するものを検討。